

2022 年度:こども園自己評価の報告書

庄内こども園

評価項目	取り組み状況
<p style="text-align: center;">教育・保育方針 教育及び保育の目標 全体計画・指導計画</p> <p>こども園として特に配慮すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育・保育課程 ・ 教育環境の整備 ・ 研究の取り組み 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 豊中市幼保連携型認定こども園教育保育過程の基本理念および、めざす子ども像をもとに、本園の子どもの実態を理解し、全体計画に基づいて指導計画を立て実践した。 ・ 「一人一人に好きな遊びがあり、ほっとできる居場所づくり」という研究テーマは3年目になるが、一昨年度はホールの環境づくり、昨年度は各部屋での環境（コーナー）づくりを行ったので、今年度は部屋とホールの遊びがつながり、一日中遊びを広げていけるように環境設定に取り組んだ。アドバイザー派遣研修でも昨年来ていただいた講師に再度来てもらい、学びを実際のコーナーづくりに生かした。 ・ 例年と異なることの多い教育保育の中での保護者との信頼関係づくりを考え「保育の内容をわかりやすく丁寧に伝える」ことに重点を置き、例年より多くの写真掲示や行事ごとの壁新聞（ドキュメンテーション）作成など取り組んだ。
<p style="text-align: center;">健康支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師が保健指導の計画を立て、年齢に合わせて内容を工夫し、集中して聞けるように各クラスごとや全体に向けて集会形式で実施した。 ・ 新型コロナ感染予防の対策について、園内での対策を考え全職員と共有して行った。看護師より職員に対して消毒方法や嘔吐時の対応法をレクチャーし、各職員のスキルアップを図り、感染症の拡大予防に努めた。 ・ 園児一人一人の健康状態を把握し感染症の発症状況や予防・対処方法を掲示したり「ほけんだより」に掲載したりして保護者啓発を行った。
<p style="text-align: center;">安全管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月初めに施設内の安全点検を行い、劣化や破損等危険個所がないか点検し、危険な個所については、直ちに修繕依頼をするなど対処した。 ・ 火災や自然災害（地震・洪水）不審者侵入等に対する避難訓練を毎月1回実施し、子ども達に緊急時に身を守ることの大切さを指導した。また、職員自身がいろいろな事象に対応できるように設定を考えて年間計画を立て、実際の避難方法等はその月の避難訓練の担当職員が計画し、反省事項等とともに記録に残し他の職員と共有するようにした。
<p style="text-align: center;">食育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナを含む感染症の流行状況に留意しながら、給食食材の下処理の手伝いやクッキングを行った。また、部屋でのご飯炊きは全クラスで行い、部屋にご飯の匂い立ち込めることで食欲を感じたり、食べる意欲につながったりしている。自分たちが実際手触りを感じたり、匂いをかいだりすることで食材への興味が広がり、苦手なものも食べてみようとする姿も増えた。5歳児は給食献立を3大栄養素に分類し、厨房に報告する取り組みを今年度も継続している。 ・ 菜園活動やクッキングは担任が技能員と連携を取りながら、クラスで子ども達が興味を持てるように計画して行った。
<p style="text-align: center;">子育て支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入園している子どもの保護者 ・ 地域の子育て家庭 ・ 地域との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児の保護者については、担任が中心に思いを丁寧に聴いて関わり、支援を必要とする保護者とはその都度密に連絡を取り、必要に応じて他機関と連携し繋げるなどの支援をした。また参観、懇談、お便りなどでは園の教育・保育内容やねらいを具体的に伝えるようにした。 ・ 今年度、地域行事には参加者が増え、継続して参加される親子も増えた。在園児との直接的な交流は難しいが、5歳児クラスが「ぴよぴよ・わんわん」の準備を継続して手伝ったり、プレゼントを作ったり、距離を取って歌を聞いてもらったりするなど5歳児クラスを中心に取り組んだ。子どもたち自身が「こんなことしてあげたい。」と積極的

	<p>に関わろうとする姿が印象的であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の方へのご挨拶には今年もコロナ禍のため5歳児は回らず、子ども達が作った花を持って園長だけが回った。閉園の話が出ると「子どもたちの声が聞こえなくなるのは寂しい」と言ってくださった方もおられた。
<p>教育・保育内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 養護・健康・人間関係 ・ 環境・言葉・表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各年齢の指導計画（年間・月間）、行事ごとのねらいと活動については、保育会議や行事のミーティング、総括会議で確認した。一人一人の育ちとともに集団の育ちを保証するため、それぞれのクラスの子どもたちに応じた取り組みであるのか、子どもたちの主体的な学びであるかを確認しながら進めていった。総括会議の中では「教育保育環境ガイドライン」にもポイントを置いて自己評価してみることで、実際の保育に繋げての理解ができた。
<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援を必要とする子どもの保護者と面談し、保護者の思いを丁寧に受け止めながらクラスの友達と「ともに育つ」ことを大事にして教育保育をすすめた。また、アドバイザー研修で子どもの発達や愛着障害について職員全員で学びを共有できたことで、気になる子どもへの関わりを職員全員で考えることができた。 ・ 就学前の子どもについては保護者と特に丁寧に話をし、就学に向けての不安が少しでも減り親子で前向きに就学に向かえるようにした。
<p>職員の資質の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「教育保育環境ガイドライン」で環境の見直しと目指す方向性が確認でき、職員で共有することで園の自己評価に繋げることができた。 ・ 職員各々が受講した研修の資料の回覧など行い学びの共有を図った。人権研修では園長（人権推進員）、副園長、主任で話し合ったテーマにそって題材を決め、講義のあと小グループで感じたことを出し合い、他の職員の考えや感じ方に触れる機会を持った。職員が「自分事として考える」ことを意識して行うようにした。
<p>幼保こ小中の連携</p>	<p>幼保こ小連絡会には参加し、引継ぎ等行うことができた。また各小学校とは個別に連携し、修了児についての引継ぎは行った。</p> <p>近隣のこども園との5歳児交流は今年度も計画し、3回（3回目は庄内西と庄内のみ）開催できて同じ小学校に行く友達との出会いと交流の場にする事ができた。</p>
<p>関係者評価の取り組み</p>	<p>今年度は3回評議員会を園で開催し、園での取り組みの説明等を聞いていただいたり、運動会や発表会の予行等で子ども達の姿を見ていただいたりした。園で大事にしている一人一人の思いに丁寧に向き合うことや、子ども自身の自己決定力や自己肯定感を育てるための取り組みなど見てもらうことができ、評議員さんから「この時期に大事なことを育てていると思う。」等の感想をいただいた。</p>
<p>その他</p>	<p>なし</p>

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

2023年3月31日

廃園

課 題	具体的な取り組み方法

令和5年（2023年）3月31日

豊中市立 庄内こども園

園長名 廣田 益美